

## 乾側をよくする会

### 1 基本データ

- 地区名 乾側地区
- 地区人口 976人  
(平成26年3月1日現在)
- 面積 10.51km<sup>2</sup>
- 地区の沿革

乾側地区は、市街地の西部に位置し、地区西端にある花山峠を境に福井市に接し、地区中央の東西を国道158号線が横断しており、大野市の西の玄関口となっている。

8集落からなり戸数約230戸で、酒米と種粃産地として有名な純農村地域である。

- 実施主体  
乾側をよくする会

### 2 現状と課題

乾側地区は縄文時代から人々が住み始め、大野でも最初に開けた場所のひとつである。弥生時代や古墳時代には牛ヶ原を中心に大きな力を持った豪族が現れ、乾側地区内に多くの墓や古墳が作られた。中でも牛ヶ原の山ヶ鼻古墳群には奥越で唯一の前方後円墳があり、鉄剣や貨幣（和同開珎）も見つかっている。なお、大野盆地内の古墳のうち6割以上が乾側地区に集中している。

また、稲作が始まり、奈良時代には寺や貴族・豪族の土地である荘園が発達したが、牛ヶ原の荘園は、奈良時代には奈良東大寺領、平安時代には京都醍醐寺領として、今の大野市街地の北半分にまで広がっていた。その牛原荘には後に牛ヶ原城が築かれ、三社神社が建立された。なお、尾永見区には、稲作に縁の深い雨乞い踊りが無形民俗文化財として継承されている。

さらに、南北朝時代に築かれた戌山城は、金

森長近によって越前大野城が築かれるまで、戦国時代の激動期を含め200年余りの間、大野とその周辺地域を治める斯波氏、朝倉氏の居城として、県内2番目の多さの畝堀数と奥越最大の規模を誇る山城であり、一乗谷城の東方面の軍事拠点として重要な役割を果たしていた。

このように、乾側地区は古来、大野盆地の中でも最も歴史と伝統のある地域であり、その価値と魅力を高めるために、平成22年度より3ヵ年をかけて「みくら清水・戌山城址」コース、「牛ヶ原城址・三社神社」の2コースの登山道整備などに取り組んできた。

地区の魅力を発信するためには、さらに、地域資源の掘り起こし、そして、登山道整備後の来客者増加のための方策や伝統の継承を、いかに継続発展させていくかが課題である。

### 3 事業の内容

#### ①史跡登山道紹介パンフレットの作成。

昨年度までに、戌山城址・牛ヶ原城址などの登山道整備が完了。

このことから、来訪者の増加を図るため、みくら清水・戌山城址」コース及び「牛ヶ原城址・三社神社」コースを紹介したパンフレットを作成。

本年度実施した戌山城址史跡巡り事業などで活用した。



## ②乾側歴史ものがたりの作成

平成22年度から3ヵ年かけて史跡整備の事業を行ってきた。

これを機会に、時にうもれつつある物語を多くの方に知ってもらい、ふるさとを振り返ってもらおうと、乾側歴史ものがたり編集委員会を設置し作成に取り組んだ。

乾側地区は、大野盆地の中でも早くから開拓されていて、長い歴史とたくさんの物語があり、その中から、「牛ヶ原城の哀話」、「雨乞い踊り」、「戌山城の盛衰」という三つを選んで、子どもからお年よりまで理解しやすいようにと、まんが調で作成した。



編集委員会の様子



乾側歴史ものがたり



## ③戌山城址史跡巡り事業

日時 10月5日(土)

午前8時30分～正午

参加者 地域住民約30名

内容 戌山城址の登山道整備が完了。丸太で固めた階段や倒木も撤去し歩きやすくなったことから、地区住民を対象に史跡巡りを企画した。

参加者は、みくら清水から登り、戌山城址を経て上丁までの1,400メートルのコース約2時間を途中、山城に詳しい、前田光雄さんから侵入を防ぐための堀切や塹壕などの説明を受けながら散策した。





「みくら清水・戌山城址」コース



堀切（敵の侵入を防ぐ）



みくら清水登り口で説明を聞く参加者



主郭



整備された登山道を歩く参加者

④木製ベンチの設置作業

日時 10月12日（土）

午前9時～午前11時

参加者 地域住民約20名

内容 地域住民自らが、昨年までに整備した戌山城址（2基）、三社神社（1基）、牛ヶ原城址（1基）にゆっくりと景観を眺めたり、休憩ができるようにと木製ベンチを設置した。



前田先生より説明



材料の搬入





**組み立て作業**



**木製ベンチ完成**

⑤史跡登山道案内看板の設置

日 時 11月26日(火)

午前8時～正午

参加者 地係関係者ほか2名

内 容 平成22年度に戌山城址「みくら清水」の登り口に史跡登山道案内看板に設置したが、平成24年度に、その昔、郵便配達人が上丁

と鉤掛を行き来したといわれている道、約400メートルを復活・改善し、新しいルートが完成したことから、来訪者にわかりやすくするため、戌山城址上丁登り口にも史跡登山道案内看板を設置した。



**現地確認 (設置場所の立会い)**



**史跡登山道案内看板 (上丁登り口)**

#### 4 事業の成果

平成22年度より3カ年をかけて「みくら清水・戌山城址」コース、「牛ヶ原城址・三社神社」コースの2コースの登山道整備などに取り組んできた。

本年度は、これまで取り組んできた事業をいかに継続発展させるかを目的とした。

まず、普及啓発事業として、2コースを紹介したパンフレット作成と「乾側歴史ものがたり」を発刊。

「乾側歴史ものがたり」の製作については、



編集委員会を立ち上げ、資料収集から始まり、いかに子どもからお年寄りまで理解しやすいようにできるかを考え、まんが調本とするなど創意工夫を行った。

この「乾側歴史ものがたり」の発刊により多くの方が、乾側地区の歴史について知ってもらい関心を持ってもらうことが期待できると考えている。

また、「戌山城址史跡巡り事業」については、地区の住民や小学校児童、また、地区外住民の参加もあり、ふるさと意識の向上と地域の魅力を発信できた。また、史跡ガイドの案内により、より一層史跡に対する理解を深められた。

史跡整備事業については、木製ベンチや史跡登山道案内看板を設置。

地域住民自らが組み立て作業を行うことによって、汗を流すことにより、「地域力」、「市民力」の高まりを図ることができた。

これら一連の事業への取り組みを通じて、地域内に貴重な文化財が存在することを再認識し、地域への愛着や誇り、ふるさと意識が高揚され、地域の史跡を継承していくことを通じて、自らの手で地域をさらによくしていくとする地域づくり活動の活性化に繋がったと考えられる。

## 5 今後の展望

本年度の「戌山城址史跡巡り」に引き続き、来年度には、「牛ヶ原城址・三社神社史跡巡り」や由来看板などを設置する予定である。

この「牛ヶ原城址・三社神社」コースは、大野・美山ふるさと林道を進んだところにある参道口から、右に200メートル進んだ牛ヶ原城址と左に約500メートル進むと石造りの小さな祠がある三社神社があり、地区外の参加も募るとともに地区小学校とも連

携を図り取り組んでいきたい。

今後とも、乾側地区に残る史跡等の地域資源の掘り起しを図るとともに、史跡・文化財を活用しての来訪者増加のための方策に知恵を出し、地域の魅力を積極的に発信していきたい。

また、本事業において「雨乞い踊り」のための太鼓・笛・法被など必要備品を整備しており、「地区敬老会」や「結の故郷・小学生ふるさと芸能発表会」などの発表の機会を持ち、しっかりと伝承していきたい。